令和 7 年 5 月 21 日
国立大学法人三重大学

NEWS RELEASE

「三重大学大学院生物資源学研究科附帯施設農場・省エネ型植物工場推進センター」の開所式のご案内

― 再生可能エネルギーを活用し、持続可能な施設園芸と人材育成を推進 ―

三重大学大学院生物資源学研究科（所在地：三重県津市）は、附帯施設農場内に省エネ型植物工場およびその運営を担う推進センターを改築いたしました。本施設は、再生可能エネルギーの活用や地域農業の発展、さらには教育・研究の充実に加え、研究成果の社会実装を目的として整備されたものです。是非ともご取材いただきますようお願い申し上げます。

記

日　　時　　令和 7 年 5 月 26 日（月）10:45～11:15

場　　所　　三重大学大学院生物資源学研究科附帯施設農場
〒514-2221　三重県津市高野尾町 2072-2

式 次 第　　開式の辞
学長挨拶
研究科長挨拶
看板設置
施設案内
閉式の辞

施設の概要等

■省エネ型植物工場の概要

必要な電力の一部を推進センター屋上のソーラーパネルで補い、省エネルギーと再生可能エネルギーを融合させた持続可能な農業生産モデルの実現を目指しています。工場内では、トマトとイチゴの栽培を予定しており、トマトにおいては、本研究科が開発した「果実が赤く甘くなる高品質栽培技術」の実証試験を行います。三重大学ブランドとして本技術の県内普及を図るとともに、研究段階で得られた成果が栽培現場でも再現可能かを検証し、品質・収量ともに安定した農業技術の確立を目指します。

■推進センターの役割

植物工場の運営支援機能として、育苗管理、農薬や培養液の調合、出荷調整、成果物の成分分析等を行います。また、センター屋根に設置されたソーラーパネルで発電した電力は、植物工場およびセンター内の設備運用に活用されます。

■環境対応・エネルギー施策

農林水産省が推進する「地域エネルギーの活用による化石燃料依存からの脱却」の方針に沿っており、太陽光発電による分散型エネルギー活用モデルの実現を目指しています。また、三重大学では、2030 年までに温室効果ガス排出量を 2013 年比で 50%削減するという全学的な方針のもと、再生可能エネルギーの導入と省エネルギー化に取り組んでおり、本施設はその一環として整備されました。

■教育・人材育成への活用

研究と実践の場としてだけでなく、三重県の施設園芸を支える人材の育成にも貢献することを目的としています。今後、学生の教育や研究活動に積極的に活用し、地域に根差した次世代農業の担い手を育ててまいります。

【報道関係者 お問い合わせ先】

国立大学法人三重大学生物資源学研究科チーム

TEL:059-231-9673 MAIL:bio-somu@ab.mie-u.ac.jp